

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年4月4日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691600037
法人名	社会福祉法人 豊生会
事業所名	グループホーム 曾於
所在地	鹿児島県曾於市財部町南俣9番地1 (電話) 0986 - 72 - 3034
自己評価作成日	令和 6年 3月 1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和6年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・グループホーム曾於は、自立・快適・安心とモットーとして、財部町の自然豊かな環境の中で、「自分らしく」「自分のペースで」「快適に」「安心して」生活して頂けるように、今までの馴染みの家具や使い慣れた道具を使用して頂きながら、職員や他利用者様と少人数でゆったりとした家庭的な雰囲気の中で共同生活を送って頂いております。

・天気の良い日には、ドライブや苑外へ散歩など少人数での関わりの中で安心感や信頼関係が構築され、認知症の中核症状の進行と行動・心理症状の出現が穏やかになるよう支援しています。

・看護職員を多く配置しており、経管栄養やカテーテル管理など医療依存度が高い方や、行動・心理症状が強く出現している方も受け入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、曾於市財部町の市街地、南俣地区の一角に平成20年に開設しており、幹線道路から少し入った場所にある。広い敷地を生かした平屋建てで事務室を真ん中に左右対称的に1ユニットずつ設置されている。園庭には大小の樹木や金柑の木、多種の草花が植えられ菜園も設けてあり、利用者が日常的に四季を感じながら日光浴や散歩を楽しめる環境となっている。隣接してスーパーマーケットがあり少し離れた幹線道路には市役所や公民館、郵便局、小学校、多種の商業施設、個人住宅等が建ち並んで利便性にも恵まれた位置にある。

ホームは、開設以来、地域の人や場との交流を大切に取り組んでおり、コロナ感染症が5類に移行したこともあり、それまでの自粛を緩和して周辺の散歩や家族・友人との面会、通院、スーパーマーケットでの買い物、高校生のサマーボランティアの受け入れ、大川原峡や霧島神宮等へのドライブ、季節の花見、家族との通院や外出、墓参等の支援に取り組む、農産物も頂いている。また、お寺からの依頼で認知症ケアの講師も担うなど日頃から認知症理解の促進に務め、地域の人から寄せられる高齢者福祉や認知症ケアの相談には専門性を活かして助言し、施設見学も丁寧に対応している。管理者はPTAや消防団の業務にも携わる等、地域活動に積極的に取り組んでいる。

管理者及び職員は、ホームの理念を年度目標「凡事徹底」と共に玄関やホールに掲示して意義を共有し、利用者の尊厳や人格、思い、生活ペースを大切に心身の状態に配慮しながら安心安全な利用者主体のケアに日々取り組んでいる。日頃の関わりの中で利用者及び家族の意見・要望等を丁寧に汲み取り、ミーティング等で検討し、また、内容によっては法人本部とも協議して改善に努めており、本評価に伴う家族アンケートの結果からも信頼度の高さが窺える。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人理念は玄関・ホールに掲示している。職員は業務の中で迷った時に理念を思い出し、ケアが理念に沿っているかを判断材料の1つとして活用している。	法人の理念はホームの年度目標「凡事徹底」と共に玄関やホールに掲示して周知を図り、日常のケアの中やミーティング、研修会等で理念の意義の確認やケアの振り返りや意見交換も行って、理念に沿った支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者様のご友人や近隣住民の方が自宅で育てられた野菜や果物を差し入れて下さる。	コロナ禍による自粛を緩和し、家族や友人との面会の実施や周辺の散歩時の挨拶、通院、美容院での整髪、サマーボランティアの受け入れ、家族との外出、墓参、大川原峡や霧島神宮、自宅周辺へのドライブ、季節の花見等に取り組んでいる。また、住民から寄せられる高齢者福祉や認知症ケアに関する相談や施設見学等にも丁寧に対応し、地域のお寺の依頼で「認知症ケア」の講師も担うなど日常的に認知症理解の促進に取り組んでいる。管理者は消防団やPTA活動にも携わる等、地域の活動にも積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	昨年の夏に曾於市役所主催のサマーボランティアで財部在住の高校生3名を受け入れて2日ずつ活動された。 また、近隣住民が集まる場所で認知症や施設について話をさせて頂ける機会を得て、内容を主催者と調整中ですが、住民の疑問等を解消して、認知症への理解を深めてもらえるようにしたいと考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告に対しての意見や要望を遠慮や気兼ねなく出して頂き、サービス向上出来るように話し合いを行い、サービス提供に取り組んでいる。	会議は家族や民生委員、市財部支所の担当者により2か月毎に書面会議を開催している。ホームの現況や行事、ヒヤリハット、感染症対応等の報告を行ない、委員からの意見は会議開催の案内や議事録を手渡す際に聴取しており地域の情報等が出されている。職員は会議の内容をミーティング等で協議して運営やサービスの向上を図っている。令和6年度は対面による会議の開催を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時、電話やメールでのやり取りを行い、市役所の担当者から指導や助言をもらうなどの協力関係を築けるように努めている。	市役所本所や財部支所の担当者には運営推進会議や日頃の関わりでホームの状況を理解して貰っている。窓口や電話、メール等で介護保険の更新や各種制度の申請や報告、感染症対応の協議、生活保護受給中の利用者の処遇に関する連携を担当ワーカーと密に行うなど協力関係を築いている。市からの情報の把握に努め、研修も管理者やケアマネが出席又はリモートで受講してサービスの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を行い、身体拘束しないで対応できる代替案を職員間で検討して取り組んでいる。	身体拘束や虐待をしないケアについては運営規定や重要事項に明記し「身体拘束等適正化のための指針」を整備している。適正化委員会も3か月毎に開催し、計画的な研修（年3回）の実施で具体的な事例もあげながら拘束及び虐待の対象行為や弊害等の認識を共有している。職員は2か月毎に自己点検シートでチェックして拘束や虐待しないケアに取り組んでいる。スピーチロックなど不適切な言動を見受けた時はその都度、気づきを促す助言を行うなど日常的に改善を図っており、人感センサー使用（4人）や眠りスキャン（1人）の利用はプランに反映し事前に家族の了解も得ている。2人の利用者が成年後見制度を活用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	隔月で虐待への自己点検やチェックを行い、高齢者虐待について勉強会で、日頃のケアを振り返り、虐待に繋がる言動を職員がお互いに注意し合え見過ごさない環境づくりに努め、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利について考え・学ぶために権利擁護の勉強会を開催している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、入所時に不安なく理解・納得して頂けるように、ご利用者様・ご家族様が満足されるまで不足のない説明を心掛けています。改定などは文章にて通知して不明な点は連絡していただき、理解・納得して頂けるよう説明を繰り返している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様は面会や電話でのやり取り、毎月手紙での近況報告を行い、ケアの方向性や相談を話し合っている。運営推進会議の意見聴取を行い、率直なご意見やご要望を伺っている。	日頃から利用者や家族とは気軽に話せる関係作りに努めており、利用者の意見、要望は日頃の会話や仕草、サイン、手話通訳士も介して丁寧に汲み取り、家族からは面会や電話、意見箱の設置、コメントや写真を掲載した毎月のお便り、月1回以上家族のキーパーソンや後見人に電話で近況を伝えながら要望等の把握に努めている。出された意見、要望はミーティング等で協議して利用者主体のケアに取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りで言えない意見や考えを聞く機会をミーティング時に設け、さらに玄関には職員用の意見箱を設置している。多くの職員は個別に管理者へ報告・相談しており、日頃から意見交換をしている。	管理者及び職員は、日頃の業務の中や申し送り、ミーティング、個別の面談、職員用意見箱の設置等で忌憚なく意見や要望、悩み等を出し合い、全員で協議して改善を図っている。管理者は日常的にケアへの助言指導や休憩時間（原則ホールで12時30分から1時間）の確保等に努め、勤務シフトには有給休暇や希望休の取得、個人的事情、介護ストレスにも配慮して働きやすい職場づくりに取り組んでおり、職員との信頼及び協力関係を築いている。外部研修の受講料等は法人の助成制度が整備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人の勤務状況を把握して、自己研鑽の為に研修参加や勤務希望・有給取得など可能な限り調整して、各個人のモチベーションが維持できるように努めている。また、子育て中の職員は可能な範囲での勤務をお願いしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各個人の有資格や技量を把握し、本人が希望する研修や必要な研修には参加できるよう調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	曾於市の認知症ホームの会やケアマネ協議会へ参加し、研修会や研修調整などの機会に情報交換やネットワーク作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始から施設での生活に慣れて頂けるまでは、こまめに声掛けを行い、お一人で不安にならないように配慮している。また、職員が会話の橋渡しを行い、利用者様同士が仲良くして頂けるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前よりご利用者様の状態や困りごとの確認を行い、施設入所の不安軽減や入所後の要望について伺い、ご利用者様を安心して預けて頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前よりご利用者様の状態や困りごとの確認を行い、必要に応じて在宅での支援方法や入所の必要性について話し合いを行っている。また、本人様の状態やご家族様の状況に応じて他サービスの紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の残存機能や生活歴を本人様より伺い、職員もご利用者様から学ぶ姿勢を持ち、無理のない範囲で軽作業への参加を促して、ご利用者様が介護されるだけの立場にならない関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙に本人様の状況報告を行い、本人様の要望がある時にはご家族様へ電話や面会・外出をして頂くなど関係が維持できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の要望がある時には、ご家族様の協力を得て、電話や面会をして頂くなど関係が希薄にならないよう努めている。また、ドライブで馴染みの場所を通ったりしている。	各利用者の家庭環境や生活歴、培ってきた馴染みの状況等の情報を共有している。家族や友人知人との面会の実施や散歩時の挨拶、馴染みの美容室での整髪（2人）、毎月のドライブ、季節の花見、家族との外出、墓参、一時帰宅等を利用者の意向や体調に配慮しながら支援している。日常的に電話や手紙の取り次ぎに務める等、関係の継続に取り組んでいる。感染症予防に取り組みながら、馴染みの人や場との交流の機会を増やしたい意向である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用様同士の関係性を把握して、感染症対策を行いながらもご利用者様同士が関わり合えるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で契約終了した後も転院や他施設入所時にはご家族様に確認後、必要な情報提供を行っている。また、亡くなられ契約終了した後もご家族様と連絡を取り合い、相談に応じて必要な支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や声掛けの返答・反応から意向や要望を聴取・推察し、本人様の思いや意向に寄り添ったケアや支援を検討している。	聴力の障害や重度化でコミュニケーションが難しい利用者もいるが、日頃の対話や寄り添いの中で気持ちを表出しやすいように工夫を行い手話通訳士も介して思いを汲み取り、家族の意向も確認しながら自己決定を尊重したその人らしい暮らしの支援に取り組んでいる。「利用者がやりたいことは、やってもらう」の気持ちでケアしており楽しみ事（ぬりえ、新聞読み、音楽やテレビ視聴等）や家事（炊事、干し柿作り、下膳他）の取り組みも心身の状態に配慮しながら個別の支援に努め、これらの成果には評価や感謝の言葉を添えて自己肯定感の修得を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様との会話や入所前に利用していたサービス事業所からの情報提供から、これまでの本人様の生活歴や生活習慣などを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の心身の状態確認を行い、残存機能を活かして無理することなく本人様のペースで過ごして頂けるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・ご家族様・職員・主治医それぞれよりモニタリングを行い、その際にそれぞれの立場からの意見を聴取・反映して、本人様の意向に沿った計画を作成できるように努めている。	利用者や家族の意向を把握し、主治医の指示や3か月毎のモニタリング、カンファレンス時の職員の意見、日々の記録等を基に、習慣や楽しみ事等も配慮した介護計画を作成して改善に努めている。定期的見直し（年2回）のほか利用者の状況に変化が見られた際には実態に沿った計画に変更し、利用者や家族の理解を得てケアに取り組んでいる。職員は実施状況を各種のチェック表や業務日誌等で共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別のケース記録に記入し、申し送りやミーティング内で職員間の情報共有をしている。その内容を支援経過に残し、介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所前に日中のお試し利用など本人様やご家族様の状況や状態に応じて、必要な支援を既存のサービスに捉われない柔軟に対応することで個別性に富んだサービスの提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対策の影響で地域資源と協働することが未だに難しくあるが、地域資源の把握は常に行い、必要や状況に応じて協働できるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関をかかりつけ医として事業所と信頼関係の構築に努め、必要時に適切な医療を受け入れられるように支援している。かかりつけ医は本人様及びご家族様の希望を尊重しており、協力医療機関以外をかかりつけ医としている方もいる。	本人・家族が希望する医療機関での受診を支援しており、従来からの医療機関や協力医療機関など4か所の医療機関を主治医としている。定期的な訪問診療（月1回）や通院を実施し、他科受診（眼科、皮膚科）もホームで対応しているが、都城市の医療機関には家族に同行してもらい適切な医療を受けており、歯科は通院で治療している。夜間は協力医療機関が24時まで対応し、それ以後は対応可能な医療機関との体制を構築している。健康状態は家族にも密に報告して安心や信頼に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は関わりの中での情報や気づき・異変を看護師に報告・相談して、ご利用様が適切な看護・処置・医療機関の受診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時はケアマネが入院先の看護師やソーシャルワーカーと連携して、安心して治療が受けられ、できるだけ早期に退院できるように努めている。 感染症対策のため医療機関側より面会を制限されていることもある為、定期的に電話連絡を行い情報交換や相談を行い、関係構築に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合は、事業所で対応可能な範囲の支援を本人様やご家族様へ説明し、終末期の意向とともに確認を行う。状態変化時には、その都度意向の再確認、協力医療機関へ相談することで、方向性や支援方法の情報共有を行い、チームでの支援に取り組んでいる。	重度化や終末期におけるホームの対応は指針を整備し利用開始時に利用者及び家族に説明して「事前確認書」を貰っている。重度化した時点で主治医や家族、関係者は十分な話し合いを行い、ホームで可能な限りのケアをチーム体制で取り組んでいるが、殆んどが医療的処置が必要となって医療機関への入院に至っている。看取り期に入る利用者が現れた場合は研修を実施して適切なケアに取り組む意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に備えて、応急処置や初期対応の勉強会や訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は実際に通報から避難終了まで一連の流れを行い、消防署へ報告し、指導や助言を頂いている。管理者が地域の消防団に所属し、避難時の協力体制を構築している。	年2回（1回は消防立ち合い）夜間想定を含む火災中心の災害訓練を実施し通報や防火設備の取扱い等も研修している。また、地震対応や水害時の避難の自主訓練も実施しており、日頃から連絡網や避難場所及び経路等の確認や災害報道を話題にする等、防災の認識の共有に努めている。災害発生時の飲料水や食料品、介護用品等は3日分を備蓄し、ラジオや懐中電灯、カセットコンロ等も備えている。BCPは作成済みである。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人様の誇りや自尊心を傷つけない関わり・声掛けを心がけ、知り得た情報は職員間の共有に留め、ケア提供時も含めて、プライバシー侵害にならないように努めている。	利用者の人格の尊重やプライバシーの確保、守秘義務については日頃から留意し尊厳を大切に言葉遣いやケアに努めている。業務の中やミーティング等で意見交換も行って認識を共有し、研修も実施している。排泄や入浴、更衣時のケアは誇りや羞恥心にも配慮し、居室への入室時もノックや声掛けを励行するなど接遇マナーに努めている。利用者が自己決定し易い語りかけや選択肢の提示など日常的に工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で声掛けや反応、本人様の行動から確認・推察して本人様の思いや意向を表出し選択・決定出来るように促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペースを大切にし、入浴や食事、就寝や起床時間など可能な範囲で希望に沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	着替えの準備を一緒に行ったり本人様の希望があれば、職員のボランティアにて散髪するなど、利用者様自身で選択されるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜や果物を一緒に下拵えしたり、本人様の嗜好や咀嚼・嚥下状態に合わせた形態で提供し、職員も一緒に食べるなど、楽しい雰囲気の中で食事できるように努めている。また、無理のない範囲で下膳や片付けを職員と一緒にやっている。	栄養バランス、嗜好、季節感、代替食、アレルギー等に配慮して調理し、トロミや刻み食など利用者の状態に応じた形態に努めている。おせちなどの行事食や敬老会の仕出し弁当、クリスマスや誕生日のケーキ、手作りのおやつ（蒸しパン、ふかし芋、干し柿、金柑漬け他）、家族との外食等、食事が楽しみなものとなるよう取り組んでいる。利用者も食材の下処理や片付け等を楽しみながら行っている。時々はお菓子の差し入れもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人の状態・習慣、嗜好に配慮して、食事や水分の内容・形態、提供量を調整して、1日を通して必要量を摂取してもらえるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各個人の状態に合わせた道具を使用して、声掛けや介助にて行っている。毎晩義歯洗浄剤を使用して洗浄して口臭予防に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、定期的に声掛けや介助にてトイレでの排泄を促し、パッド内での排泄軽減に努めている。	利用者の自尊心や習慣、羞恥心等に配慮し、身体の状態やパターンに対応した支援をプランに反映させている。全居室にトイレが設置されており、昼間はさりげない声掛けや誘導等で出来るだけトイレで排泄し、夜間はリハビリパンツ、パット、オムツ等、利用者毎に介護用品やケアの方法を工夫しており、介護用品の消費量が減少する等の改善が図られている。便秘の予防に朝食に牛乳やヨーグルトを提供し水分の摂取、運動量にも配慮して自然排便に努めているが、主治医の指示で服薬する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、申し送り時に職員間で情報共有して十分な水分摂取や繊維質の食事摂取を促し、運動や腹部マッサージを行い、トイレでの自然排便を目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	個人の状態や希望、タイミングに合わせて入浴して頂いているが、嫌がられる時は時間や日にちをずらしたり、職員を代えて声掛けするなど工夫して支援している。ご利用者様の希望があれば、入浴剤や本人様持ちのシャンプー等を使用している。	基本個浴で午前中の入浴を週3回支援し、状況によってはシャワー浴や清拭でも保清している。入浴の順番や温度、時間、好みのシャンプー、同性介助等は意向に沿って柔軟に対応し、ゆず湯や菖蒲湯も取り入れてゆっくり楽しんで貰っている。入浴後は水分補給や主治医処方軟膏の塗布を支援し、入浴を渋る利用者には無理強いしないで時間をずらしたり、介助者の変更や声かけ等を工夫し、利用者の意向も配慮しながら支援している。入浴が職員との良好なコミュニケーションの場にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人の状態や習慣に合わせて休んで頂いている。また、食後など状況に応じて体位の調整を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状を各個人のファイルに保管して、職員が必要時にいつでも閲覧できるようにしている。また、処方内容に変更や追加・中止があった場合は申し送りやノートを活用し情報共有をして異常や変化の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の状態や残存機能に応じて、掃除や野菜の下拵えなど気分転換や楽しみ、役割として感じられるように職員と一緒に軽作業を行って頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に苑庭や遊歩道の散歩、ドライブなどの外出を支援しており、ご利用者様の希望によってはご自宅への外出などご家族様の協力を得て、気分転換やストレス発散が出来るように支援している。	感染予防に努めながら園庭や東屋での外気浴や周辺の散歩、通院、スーパーマーケットでの買い物、毎月のドライブ、家族との外出、一時帰宅等を心身の状態にも配慮しながら取り組んでいる。また、外出の機会が少なくなっているため、ホーム内で時節に応じた作品作りや軽い運動、ゲーム、昔の音楽やテレビ視聴等、工夫してリフレッシュを図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の数名は少額の現金を所持して、安心感や満足感を得られている。紛失の恐れがあれば事業所管理をしており、本人様の希望時に使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者様の希望時や不安時に、ご家族様や知人・友人へ電話連絡を行っている。ご家族様の状況や状態によっては、必要に応じてFAXや手紙でのやり取りを支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や作成物を掲示して季節感を感じてもらえるようにしている。また、天気や日没などに合わせて照明を調整したり、感染症対策で適宜換気を行う為、室温・湿度の調整に配慮している。天気の良い日は窓際などで日光浴など行っている。	ホーム全体がバリアフリーの構造で、利用者が昼間の殆どの時間を過ごすホールは余裕のある広さが確保され畳スペースも設置されている。整理整頓や採光、空調、換気等に配慮し、テレビやテーブルセット、ソファ、加湿器、空気清浄機等が利便性や人間関係も考慮して設置されている。季節に沿った展示物や利用者の作品（絵画、貼り絵他）、写真、活花等が飾られ、キッチンからは調理の音や臭いも伝わる等家庭的な雰囲気のある清潔感ある空間となっており、利用者は四季を感じながら平穩に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	感染症対策のため、他者との一定の距離を保ちながらも、関わりが維持できるように座席の配置を考慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様・ご家族様には、馴染みのある物や好みの物を施設内に持ち込み使用することで本人様が安心を得られて精神的安定へと繋がることを説明して、可能な範囲で本人様の馴染みの家具や寝具を持ち込んで頂き、居心地の良い環境作りに努めている。	洋室及び和室の居室は腰高窓の構造で明るくエアコン、ベッド、トイレ、洗面台、クローゼット、ナースコールが備えられ、戸惑う事の無いように意向に沿って入口には氏名が表示されている。過度なケアとならないように利用者に確認しながら清掃や整理整頓を支援し利用者は自宅から寝具やテレビ、家族写真、衣装ケース等を持ち込み、自身の作品や頂いた品物等も飾るなど家庭同様に居心地良い環境に整えて安心した日々を過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ・浴室などに手すりが設置しており、事業所内はほとんど段差がなく、ご利用者が安全で自由に動ける環境になっている。また、私物など設置する際は、行動を制限しないように安全に配慮している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない